



れんかく



歯科口腔外科の紹介



歯科口腔外科 部長
田満 千子

護師や技工歯が不在となり、一人医長の時期を経て現在に至ります。平成20年に副部長であられた酒井先生が科の名称を「歯科」から「歯科口腔外科」へ変更され、2人体制に戻されました。現在は歯科医師2名、看護師1名、歯科衛生士3名（臨時歯科衛生士1名を含む）およびクラーク1名が在籍しています。私は昨年赴任して参りました。この場を借りて改めてご挨拶申し上げます。歴史ある科にて部長という大役を承り、「もっと発展的にやらねば」と日々身が引き締まる思いです。

当科における患者の内訳は40%が他院からの紹介患者で、50%が院内紹介患者です。

他院からの紹介患者は一般に口腔の外科処置が多く、智歯抜歯や抗血栓療法患者の抜歯、炎症（顔面腫

脹の7～8割は歯が原因と言われています）、顎骨骨折（ずれた咬み合せを治します）、顔面裂傷、歯の脱臼の整復以外に、インプラント埋入、インプラント埋入前の造骨処置や、顎関節患者に対する関節腔への注射、顎関節脱臼に対する自己血注入療法、口腔腫瘍（口腔がんを含む）などです。扁平苔癬や天疱瘡といった口腔粘膜疾患以外に三叉神経痛や舌痛症の患者さんも診察しています。歯科治療に関しては歯科治療恐怖症患者に対する鎮静下での処置や、有病者の歯科治療も依頼されることがあります。

院内紹介患者においては一般歯科治療以外に、心臓血管外科や頭頸部領域の手術前後の口腔管理、胃瘻造設前や誤嚥性肺炎患者の口腔管理、骨代謝調整剤使用前や化学療法開始前の口腔管理依頼が多いです。抜歯が終了するまで手術や治療開始を待っていただくこともあります。このような体制を取っている病院は本院以外になかなかないと思われます。

また衛生士主体に糖尿病教育入院中の患者を対象とした糖尿病教室や、妊婦を対象とした母親学級で「全身と口腔のかかわり」について説明をし、啓蒙活動に取り組んでいます。

「口は健康の入り口」といわれる大切な部位で、治療に際し口腔管理が必要な患者さんがたくさんおられます、マンパワー不足で対応しきれっておりません。

口腔管理に関して近隣の開業歯科医院の先生方々からの御指導・御協力を希う次第であります。

当科は患者さんが正しく咬合して疼痛を感じることなく摂食でき、また全身の治療に際しては口腔に問題が生じず治療が完遂できることを目標としています。口腔顎面領域にお困りの患者さんがおられましたら、相談していただければ幸いです。今後ともどうぞ宜しくお願い致します。



高精細・高倍率手術顕微鏡導入



形成外科部長 池野屋 慎太郎

このたび松江赤十字病院手術室に三鷹光器株式会社製の手術顕微鏡が導入されました。この顕微鏡は他社製手術顕微鏡が25倍程度の倍率の中、対物レンズの選択により最大77倍まで拡大が可能で、明るい光学設計により高倍率でも高精細な術野が確保されています。形成外科では、以前より末節部切斷における直径1mm以下の血管吻合やリンパ浮腫に対する0.5mm以下のリンパ管静脈吻合を行っておりますが、導入以前と比べ確実な吻合が可能となり手術成績の向上が期待されます。

また、この顕微鏡はインドシアニングリーン(ICG)蛍光観察が可能となっております。ICG蛍光は、低侵襲性手術としての乳腺外科でのセンチネルリンパ節生検や脳血管外科手術、心臓血管外科手術での血流評価などで有効性が期待されております。形成外科でも皮弁の血流評価やリンパ節・リンパ管の同定、リンパ管静脈吻合後の静脈内へのリンパ流の確認などが可能となります。以前と比較して医療者の負担も軽減され、患者さんにおいても有益であると考えています。



平成
27
年度

第1回 地域医療支援病院運営委員会 を開催しました

地域医療連携課

去る、6月11日（木）平成27年度第1回地域医療支援病院運営委員会を開催致しました。今回は、紹介患者動向や医療の提供状況、「講演会」の実績報告に加え、「地域医療勉強会」「おしあげ勉強会」について報告いたしました。委員の先生方からは有効な取り組みであるとした上で、地域の医療従事者の方々に取り組みを知って頂いたら良いというご意見を頂きました。この地域医療支援病院運営委員会は年4回程度実施することにしており、地域の有識者の先生方から地域医療支援病院としての進め方についてご意見を頂く貴重な場となっております。

新設!! 下肢静脈瘤外来

心臓血管外科部長 齋藤 雄平

7月6日より、心臓血管外科外来に下肢静脈瘤外来を新設することとなりました。

先日、れんけいだよりで報告させていただきましたように、本年3月より下肢静脈瘤に対する血管内焼却術（レーザー治療）を導入いたしましたが、それを契機に静脈瘤の患者さんが増えたことと、術後の経過を以前よりも定期的にチェックしないといけなくなったことなどをあわせ、少しでも患者さんの待ち時間の短縮につながればと考え開設いたしました。

静脈瘤は、御存知のように致死的疾患ではございませんが、患者さんご自身は結構気にしていらっしゃる方も多いようにお見受けします。通常は、当然手術に緊急性はございませんし、外科的治療を行うか否かも、ケース・バイ・ケースだと思います。患者さんの希望や開業医の先生方のご

意見も含めて検討し、ゆっくり時間をとって治療について考える機会を提供出来るようになればと考えています。静脈瘤と診断がついた患者さんはもちろん、静脈瘤だろうか？といったような患者さんでも構いませんので、お気軽に御紹介下さいませ。

また、余談ではございますが、当院では、深部静脈血栓症は循環器内科が主科となって治療にあたることが多く、下肢の腫脹に関しても血管外科的なアプローチをとることは極めて少なく、内科的なアプローチで診療を進めていくことが多いため、総合診療科、内科に依頼して精査していただくことが多くなっています。上記疑いで当科へご紹介いただいた場合、上述のような理由で、初めより他科にて診察をさせていただくこともあるかと思います。この紙面を借りておことわり申し上げます。

少しでも皆様のお役に立てる外来にしていきたいと考えていますので、当科の外来に関して、御質問・御意見等ございましたら、是非御連絡下さいませ。

今後とも、よろしくお願ひいたします。

島根町大芦で「地域懇談会」を開催しました

地域医療連携課長 齋藤 文章

去る、7月22（水）島根町大芦の「和やか寄合い」の皆様約40名にお集まり頂き、「地域懇談会」を開催しました。今回は、松江保健所の平賀瑞雄先生にもご参加頂き、人口減少、高齢社会の中で医療施策に基づいて病院や医療、地域がどのようになっていくのかについてお話しいただきました。主催者挨拶の後、秦公平院長から、人口減少の中で、多死社会が到来する事、そこに加え、膨張する社会保障費、中でも医療費をどのように抑制していくことが政策の中心であり、それに伴い医療の内容が変化している事など説明がありました。また、病院の機能分化が今後進む中で、当院の果たす役割をより明確にしていく必要があることなどが説明され、高度医療を提供する病院として、あるいは地域医療支援病院として、当院の果たす役割がより一層重要なことなど話されました。続いて松江保健所長の平賀瑞雄先生からは、国が進めようとしている「地域医療構想」を中心にお話し頂きました。今後人口減少が進んで行く中で、病床数が見直されなければ、いずれ患者の取り合いになること



が目にみえていること、病院毎の役割がある中で、今後はその役割を明確にしつつ、互いに連携できる体制を作ることが求められており、今後具体的な話し合いがもたれていくことなどお話し頂きました。病床を減らすことだけが取りざたされていますが、本当の目的は人口の規模に応じた医療や福祉のネットワークを皆で考え、整備していくことが目的であり、また地域でも少しでもお年寄りの孤独死が無くなるためにも地域ぐるみで支援を確立していくことも大切なことであるとお話し頂きました。ご参加頂いた地域の方々の心に残るお話しであったかと思います。

第621回 集談会報告

山本内科医院
山本 悅正 先生より講演



去る、5月19日（火）第621回集談会に山本内科医院院長山本悦正先生をお招きし、「『外来診療学のタベ』と病診連携～ER紹介例から学んだこと～」と題し講演頂きました。「外来診断学のタベ」は当院副院长大居医師と共に立ち上げられ、日本臨床内科医学会で発表大会会長賞を受賞されました。いくつかの症例をあげ、「外来診断学のタベ」が日々の臨床に役立っていること、症例の振り返りなど多岐に亘り講演頂きました。



- 地域連携交流会
8月6日（木）19:00～
ホテル一畠にて
- 雲南圏域 地域医療従事者スキルアップセミナー
8月26日（水）18:30～20:00
雲南市立病院にて

雲南圏域 地域医療従事者スキルアップセミナー

- 概要
医療従事者の皆様におかれましては益々精進のこととお慶び申し上げます。
この度、雲南圏域地域医療従事者スキルアップセミナーを開催の内容で開催する運びとなりました。
ご多忙中とは存じますが、万葉お詫び合わせの上、ご出席賜りますようよろしくお願い申し上げます。
■会場
日 時：2015年8月26日（水）18:30～20:00
会 場：雲南市立病院 4階大会議室
- テーマ
「血液の病気と地域連携について」
- 開会挨拶 18:30～18:35
雲南市立病院 副院長 佐野 啓介
- 講 演 18:35～19:15
すぐには役立つ血液疾患の基礎知識と地域連携
松江赤十字病院副院長・総合診療科部長 大居 慎治
- 19:15～19:40
抗がん剤の副作用について
松江赤十字病院薬剤部 病棟薬剤課長 南目 祐希
- 19:40～19:55
抗がん剤の暴露対策について
松江赤十字病院 薬剤部・地域医療連携室長 伊藤 良子
- 閉会挨拶
松江赤十字病院 院長補佐・地域医療連携室長 漆谷 義徳



新任医師紹介



●平成27年5月1日付

整形外科

松浦 幸男

足腰の病気や、万が一がをされても、できるだけ手術をしなくともすむように、また手術をする場合でも、できるだけ負担の少ない治療を心がけます。



●平成27年5月1日付

研修医2

北尾 苑子

研修医の北尾苑子と申します。9ヶ月という短い期間ですが、頑張って勉強したいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。



●平成27年7月1日付

小児科

森 里美

7月から島根大学小児科より着任しました。子供たちの笑顔のために、心豊かな社会のために、日々努力致します。よろしくお願い致します。

退職者

●平成27年4月30日付
整形外科副部長

西村 和史

●平成27年6月30日付
循環器内科副部長

角田 郁代

●平成27年6月30日付
第一外科副部長

小池 誠

●平成27年6月30日付
小児科

和田 啓介

●平成27年7月31日付
副院長・消化器内科部長

香川 幸司



松江赤十字病院 地域医療連携課

〒690-8506 松江市母衣町200番地
TEL 0852-32-7813 FAX 0852-27-9261